

要旨

会議の不満、解決します！ ～未来会議の AI アイディア～

1. 研究背景

コロナ禍における職場での変化を調査した「職場における集まる意味の調査」¹によると、「コロナ前と比較して、対面は 67.1%で減少」及び、「web 会議（画面あり）は 54.9%で増加」とあり、社会情勢の影響も受けて会議の形は変化している。この変化によって様々な場所で会議が可能になったが、それ以外は従来の対面会議と変わっていない。そこで、これからも会議の形は変化するであろうことを踏まえた上で、10 年後を見据えた、今までとは違う新しい会議を研究する。

2. 研究目的

AI を通して、今までの会議(対面・リモート)のデメリットである下記を解決する。

- 発言の順番待ちが発生し、発言できない場合もある。
- 時間を合わせなければならない。
- 立場・経歴によって参加・発言しにくい場合がある。

3. 仮説

AI を活用することで下記のような効果が得られると仮定する。

- 会議進行を AI に任せ、相槌等で議論を促進させる。
- AI が会議の内容を代弁し、時間差での参加が可能になる。
- AI によって参加者の感情を可視化し、対人面の不安を解消する。

4. 研究方法

既存の機能を調査し、AI の機能を想定しながら、疑似会議を重ね、研究目的で挙げたようなデメリットの解消ができる AI の機能や会議のルールを検証する。

心拍の測定を実施し、感情の可視化について検討する。

5. 研究結果

AI アバターによる発言の促しやポジティブな反応によって発言しやすい環境となった。また、関連情報の提示が、沈黙を破るきっかけや白熱した議論を落ち着かせるものとなり、議論が進めやすくなった。そして、対 AI アバターであることによって、時間や議論の流れを気にすることなく、途中参加できた。

心拍によってストレス値を測る方法では、心拍数が元々高い人や測る直前の運動によって値が左右されるため、必ずしも正確ではないことが分かった。

要旨

6. 課題および今後の展望

暴言など議論を乱すような意見の管理方法について検証を進めなければならない。
また、ストレス値の測定には心拍だけでなく、脳波など複数の要素が必要である。

今後、技術の発展によって AI による自然な会話や参加者の状態判断が可能になれば、
会議シーン・参加者に最適な会議が実現すると考える。

ⁱ リクルートワークス研究所「職場における集まる意味の調査」 p.7

[https://www.works-i.com/research/works-](https://www.works-i.com/research/works-report/item/gettogether_research_detail_1.pdf)

[report/item/gettogether_research_detail_1.pdf](https://www.works-i.com/research/works-report/item/gettogether_research_detail_1.pdf)(最終閲覧日 2022 年 10 月 19 日)

文章内の記載の会社名および製品名は、各社の登録商標または各社に帰属する標章もしくは商号です。